

要 請 書

またしても起きてはならないことが起こった。元米海兵隊員・米軍属の毒牙でうら若き20歳の女性が強姦・殺害され、むごたらしく山野に遺棄された。真犯人は1人か?殺人集団の軍事基地を設置させたのは誰か?その責任は?

ありったけの地獄を集めたと言われる沖縄戦で12万5千人の沖縄県民の命が奪われ、全体で20数万人が犠牲となった。戦中・戦後の混乱に乘じ、県民の生産の場の田畠・大地は米軍基地に奪われ、71年が経過した。

この間に伊江島における米弾薬輸送船の爆発事故の巻き添えで住民107人が爆死。宮森小ジェット機事故で18人の命が奪われ、川崎で、嘉手納で、読谷で、那覇市牧志で、米軍機の墜落事故により多くの命が奪われてきた。夜な夜な米兵は集団で婦女子を狙い、民間家庭に押し入り、婦女子を拉致し暴行のかぎりを尽くした。1955年石川市(当時)で幼い由美子ちゃんを拉致し嘉手納基地内で強姦、殺害し基地のゴミ捨て場にゴミのように遺棄した。沖縄の人を人と見なさず、バス待ちの県民をバス亭の看板ごと米軍トラックで突き飛ばし、青信号の横断歩道を渡っていた国場くんを信号無視の米兵がひき殺し、土手の木陰で休んでいた老女をジープで駆け上がりひき殺した。幾人ものタクシー運転手をナイフで惨殺し、路上の青年をその豪腕自慢のため撲殺した。辺野古で婦人がロック片で撲殺された。戦争は終わっても県民の命は米軍基地・米軍人により、おびただしい殺人、強姦、暴行、墜落事故などで理不尽に奪われてきた。

県民にとって戦争は終わっていない。上記の由美子ちゃん事件と同様な事件がまた起きてしまった。なぜ何も変わらないのか?軍事基地が居座るからだ。軍隊は殺人鬼集団だ。事件・事故のたびに日米政府は「米軍の綱紀粛正」、「再発防止」と幾度となく言ってきた。しかし、何の役も立たないことは沖縄の悲劇が証明している。一体何人殺されたら日本政府は腰をあげるのか。この事実を目の当たりにしてもさらに日本政府は沖縄に基地を置くのか。「辺野古が唯一」というのか。殺人鬼集団が巣くう新基地を建設するのか。

沖縄に悲劇はもうたくさんだ。二度と犠牲者を出さないためには、もう沖縄から全基地撤去するしかない。行政の最優先の義務は人々の命を守ることのはずだ。しかし、この71年間日本政府による未必の故意、不作為の罪、放置により沖縄県民のみが犠牲を負わされてきた。軍事基地の沖縄設置は日本政府による沖縄県民への差別・虐待でしかない。

日本政府は米軍基地の設置責任を取るべきではないか。政府が真に責任を取るなら、「再発防止」を唱えるなら、沖縄の「全基地撤去」に即刻着手すべきだ。

まず普天間基地を即刻閉鎖し、辺野古新基地建設を断念するよう要請する。

2016年 6月 1日

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 環境大臣 国土交通大臣 殿

第三次嘉手納基地爆音差止訴訟原告団